

令和 2 年 7 月 1 日現在

機関番号：14601

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2019

課題番号：17K04780

研究課題名(和文) &lt;アートの拡張&gt;をふまえた題材・授業開発 - 美術教育における「遊び」概念に基づいて

研究課題名(英文) Development of Teaching Themes and Model Taking "the Expanding of Art" into Art Class: Based on Concept of "Play" in Art Education

研究代表者

宇田 秀士 (UDA, Hideshi)

奈良教育大学・美術教育講座・教授

研究者番号：20283921

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,000,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、美術教育の「遊び」概念における相の一つである<アートの拡張>について、次の2つの基軸、(1)<アート概念の拡張>の視点を持つ美術教育研究グループの活動内容、(2)総合的な学習、ESD、STEAMなどの包括的な学習の中でのひろがり、を中心に考察した。

また、「アートの拡張」体験を活かすことができる<美術教育>題材の開発を行い、小学校、中学校などで実践し、その検証をした。各協力者勤務校での授業動画記録、作品写真を基に、授業モデルとして、動機付け、試行錯誤、活動の継続性(繰り返し)の場面を取り入れた事例モデルを作成した。そして、大学教育や現職教育などでの教師教育プログラムに反映させた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

(1)美術教育における「アートの拡張」について、美術教育史・理論研究の成果を<美術教育における「遊び」概念>で捉え直し新たな実践像を描き出した。また、そこから総合的な学習、ESD、STEAMなどの「包括的な学習」と接点を見出し、現代的な教育課題に対する基礎的な考察となった。

(2)上記をふまえた<題材・授業>の開発・検証は、「造形遊び」を発展させた題材、3D機器を使った題材、鑑賞活動を表現に連鎖させる題材など美術教育政策における基礎資料となる。また上記(1)、(2)をふまえた美術教師教育の展開は教員養成系大学・学部の喫緊の課題である能動的な活動を提供できる教師教育の基礎資料になりえる。

研究成果の概要(英文)： This study, "expansion of art" which constitutes one aspect of the concept of "play" in art education is examined, mainly featuring two key subjects: (1) contents of the activities of a study group having the viewpoint of "expansion of the concept of art" on art education and (2) expansion within the comprehensive environment for learning, including so-called integrated study, ESD and STEAM.

We developed the art education materials which enable the utilization of experiences from "expansion of art" and, then, they were put into practice at elementary and junior high schools for verification. Furthermore, model cases for teaching incorporating motivation, trial and error and scenes of continual (repetitive) activities were developed based on video recordings and photographic works produced in the process of teaching at the schools of the partners. The results were reflected in a teacher training program at college and for incumbent teachers.

研究分野：美術科教育学

キーワード：美術科教育 造形表現 図画工作 アート概念の拡張 内発的動機づけ 遊び 材料体験 鑑賞活動



とりわけ文部科学省学習指導要領 図画工作編にある「造形遊び」という〈概念・言葉〉も、関連の著作で多義的に遣われ、多くの混乱が生まれてきた。この「造形遊び」を含めて美術教育実践と縁が深い「遊び」概念全体の整理・構築を精緻に行い、混乱や誤解を解消する意図が本研究の根底にある。

そして、本研究では、このうち、「アート概念の拡がりをもたらす柔軟な思考への誘い」に焦点をあて、〈アート概念の拡張現象に出会わせ、誘う実践〉の構造把握と題材開発及び教師教育への反映を行う。子どもは〈アート概念の拡張〉にふれ、「試行錯誤、領域横断的な思考」等の造形的な学びを行なうが、この中で内発的な動機づけの芽が生まれると考えられる。「遊び」概念の理論的な把握をふまえて、〈アートの拡張〉をふまえた題材・授業研究を行うことで、造形表現活動の本質的な意義に基づき、子供の主体的な活動に繋げていきたいと考えた。

### 3. 研究の方法

具体的には、以下の3つの課題を設定して行う。

〈研究課題1 美術教育における「アート概念の拡張」の整理・構築〉

〈研究課題2 「アート概念の拡張」の整理・構築に基づく〈図画工作・美術科〉題材及び授業モデル開発並びにその実践検証〉

〈研究課題3 美術教師教育プログラムへの展開〉

(1)課題1については、2013(平成25)年に開催した「美術教育における「遊び」概念と指導」シンポジウム(=美術科教育学会プレ学会)<sup>2)</sup>の『記録集』や2016(平成28)年に開催した「ドイツの初等教育における「アート・プロジェクト教育実践」から探る美術教育の新たなくかたち」<sup>3)</sup>『記録集』<sup>3)</sup>における実践や発言をふまえて考察する。

さらに、現代アートと教育実践との繋がりについて、国内外の文献研究を行い、現代アートの原理と教育原理の共通基盤について考察する。これに関連しては、海外共同研究者のウアラス教授(ドイツ・ハイデルベルク教育大学)と情報・意見交換を進める。

(2)課題2については、2ヶ月に1回程度、小学校教員、中学校教員、高校教員、絵画教室指導者などの研究協力者との打ち合わせ会を持つ。そして、代表者が整理した課題1の内容について、研究協力者と意見交換をする。代表者が、〈単元・題材〉開発を進めるシステムを大学において整備し、学習資料、教具を作成し、協力者に配布する。各協力者は、先行実践を学び各勤務校の情報を交換し検討する。その上で、代表者からの素案を基に、〈単元・題材・授業モデル〉開発を進め、各勤務校で実践・検証する。

「造形遊び」を活かした描画活動や環境芸術題材、身体的な活動を取り入れた鑑賞を表現に連鎖させる題材、3D スキャナー・コピー活用の「うつし」題材、版遊びを活かした描画題材、光を生かした題材などの〈単元・題材〉を開発する。また、各研究協力者勤務校での授業動画記録、音声記録、作品写真を基に、授業モデルとして、動機付け、試行錯誤(行きつ戻りつ)の思考、教科領域横断的な思考、活動の継続性(繰り返し)の場面を取り入れた事例モデルを作成する。

(3)課題3については、課題1、2の研究をふまえ、大学教育及び現職教員の研修会などで試行をする。このとき、2018(平成30)年11月開催の日本教育美術連盟主催 第69回造形表現・図画工作・美術教育全国大会 奈良市大会(幼・小・中・高・特支などの教員の全国大会)とも連動させながら行う。

## 4. 研究成果

(1) <研究課題1 美術教育における「アート概念の拡張」の整理・構築>については、文献調査、海外研究協力者との意見交換や現地訪問(ドイツ, 2018)を通じて、考察の基盤を固めた。そして、その一部については、「教育現場の研究と学会における学術研究の豊かな関係性とは」(『美術教育学の現在から <美術教育学叢書1>』2018, pp. 186-198), 「グローバル, グローカルの視点と造形教育」(『やわらかな感性を育む 図画工作科教育の指導と学び』2018, pp. 23-26), 「美術教育の変遷 - その理念と思想」(『美術教育概論 新訂版』2018, pp. 28-33), 「美術教育の「遊び」概念における<アートの拡張>について」(第41回美術科教育学会北海道大会 2019, 口頭発表), 「美術教育における「遊び」概念に関する小年表」(『奈良教育大学 次世代教員養成センター 研究紀要』第6号, 2020, pp.271-276)として、それぞれ発表した。

(2) <「アート概念の拡張」の整理・構築に基づく<図画工作・美術科>題材及び授業モデル開発並びにその実践検証>については、2ヶ月に1回程度、小学校教員、中学校教員、高校教員、造形教室指導者などの研究協力者との打ち合わせ会を持ち、代表者が整理した課題1の内容について、研究協力者と意見交換をした。

その上で、「アート概念の拡張」体験を活かすことができる<美術教育>題材の開発を行い、小学校、中学校などで実践し、その検証をした。各協力者勤務校での授業動画記録、作品写真を基に、授業モデルとして、動機付け、試行錯誤、教科領域横断的な思考、活動の継続性(繰り返し)の場面を取り入れた事例モデルを作成した。

(3) 現代アート作家からの示唆を受けた「光を活かした題材」については材料研究並びに実践・検証を行い、2017(平成29)年 第35回 InSEA(国際美術教育学会)世界会議<韓国 大邱大会>にて口頭発表をするとともに、”Development of Subjects Based on “Expanded Concept of Art” Encompassing Intimate Artistic Experience, Modern Art and Traditional Culture” (*The 35th World Congress 2017 in Daegu, Korea Proceedings*, 2017, pp. 536-541, <http://insea.cjint.kr>)として発表した。

(4) 3D スキャナー・コピー機活用の小学校での「キャラクターづくり」題材については、加舎章二郎氏(研究協力者)と共に、試行錯誤を重ね、第40回美術科教育学会滋賀大会(2018)で口頭発表するとともに、「個人向け3D機器を用いた<図画工作・美術授業題材>開発のための基礎研究」(『奈良教育大学 次世代教員養成センター研究紀要』第5号, 2019, pp. 217-222)として発表した。

(5) 表現に連鎖させる「鑑賞遊び」題材については、主に日本美術の題材開発を行い、「奈良教育大学附属中学校 美術科特別授業「仏像の魅力」報告」(『奈良教育大学 次世代教員養成センター研究紀要』第4号, 2018, pp.217-222), 「我が国の美術・文化財, 世界の美術・文化財」(『やわらかな感性を育む 図画工作科教育の指導と学び』2018, pp.228-233)としてそれぞれ発表した。

(6) <研究課題3 美術教師教育プログラムへの展開>については、研究課題1, 2の成果をふまえ大学教育に反映させ、「図画工作科における研究授業づくり-教育実習での研究授業を中心として」(『明日の小学校教諭を目指して 子どもの資質・能力を育む図画工作科教育法』2019, pp.210-211)として発表した。このほか、「双方向遠隔授業による教員免許状更新講習会选择領域 小学校(2017.10)」「奈良県図工・美術教育研究会 総会講演(2018.6)」、「奈良教育

大学 教員免許状更新講習会 選択領域 中高美術(2018.8)」などの現職教師教育プログラムに活かした。さらに、2018(平成 30)年 11 月開催の日本教育美術連盟主催 第 69 回造形表現・図画工作・美術教育全国大会奈良市大会(幼・小・中・高・特支 教員の全国研究大会)とも連動させて、奈良市立伏見小学校、奈良市立富雄南中学校、奈良市立平城東中学校、奈良教育大学附属中学校などでの教員研修に反映させた。

## 引用文献

1)宇田秀士編著,宮崎藤吉,山口二三八,足立元,永守基樹『美術科教育学会第5回西地区会<研究発表会 in 奈良>概要集 25年を経た「造形遊び」の功罪 - <新たに切り開いた道>と<巻き起こした混乱・誤謬>』ABS出版,2003,全78p.

2)宇田秀士編著,黒岩和子,團上哲,長友紀子,水島尚喜ほか『第36回 美術科教育学会 奈良大会 記念プレ学会<研究発表会 in Nara>2013 美術教育における「遊び」概念と指導 記録集』ABS出版,2014,全80p.

3)宇田秀士,マリオ・ウアラス,岡田陽子,辻大地,福本謹一,湯川雅紀,鈴木幹雄ほか『2016年度 美術科教育学会 リサーチフォーラム in Osaka, Japan 記録集 ドイツの初等教育における「アート・プロジェクト教育実践」から探る美術教育の新たな<かたち> マリオ・ウアラス教授(ドイツ・ハイデルベルグ教育大学)のプロジェクト型美術教育をふまえて-Web版』<http://www.artedu.jp/> 2020.6.1 確認。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計5件（うち査読付論文 2件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 4件）

1. 著者名 UDA, Hideshi	4. 巻 1
2. 論文標題 Development of Subjects Based on “Expanded Concept of Art” Encompassing Intimate Artistic Experience, Modern Art and Traditional Culture: From Study on Well-Developed Concept of “Play” in Art Education	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 The 35th InSEA(International Society for Education through Art) World Congress 2017 in Daegu, Korea Proceedings 2017.9 <a href="http://insea.cjint.kr">http://insea.cjint.kr</a>	6. 最初と最後の頁 536, 541
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 劉麟玉, 宮下俊也, 宇田秀士, 横山真貴子	4. 巻 4(通巻40)
2. 論文標題 教員養成における幼稚園5領域科目の内容構成(5) - 「表現」に関わる教育内容研究知見に依拠して	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 奈良教育大学次世代教員養成センター研究紀要4(通巻40)	6. 最初と最後の頁 259, 265
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 宇田秀士	4. 巻 4(通巻40)
2. 論文標題 奈良教育大学附属中学校 美術科特別授業「仏像の魅力」報告	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 奈良教育大学次世代教員養成センター研究紀要4(通巻40)	6. 最初と最後の頁 217, 222
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 宇田 秀士, 加舎 章二郎	4. 巻 5(通巻41)
2. 論文標題 個人向け3D機器を用いた<図画工作・美術科授業題材>開発のための基礎研究	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 奈良教育大学 次世代教員養成センター 研究紀要	6. 最初と最後の頁 217, 222
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 宇田秀士	4. 巻 6 (通巻42)
2. 論文標題 美術教育における「遊び」概念に関する小年表	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 奈良教育大学 次世代教員養成センター 研究紀要	6. 最初と最後の頁 171, 176
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

[学会発表] 計4件(うち招待講演 0件/うち国際学会 1件)

1. 発表者名 Uda, Hideshi
2. 発表標題 Development of Subjects Based on “Expanded Concept of Art” Encompassing Intimate Artistic Experience, Modern Art and Traditional Culture: From Study on Well-Developed Concept of “Play” in Art Education
3. 学会等名 The 35th InSEA(International Society for Education through Art) World Congress 2017 in Daegu, Korea 2017.8.8 <a href="http://insea.cjint.kr">http://insea.cjint.kr</a> (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 宇田秀士, 加舎章二郎
2. 発表標題 家庭用3D機器を用いた<図画工作・美術授業題材>開発のための基礎研究
3. 学会等名 第40回美術科教育学会滋賀大会 2018.3.30
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 宇田秀士
2. 発表標題 美術教育の「遊び」概念における<アートの拡張>について - 実際の授業像や教師の意識をふまえて -
3. 学会等名 第41回美術科教育学会 北海道大会 2019.03.27
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 宇田秀士
2. 発表標題 図画工作・美術科題材と包括的な学習：美術教育の「遊び」概念における<アートの拡張>をふまえて
3. 学会等名 第58回大学美術教育学会 岐阜大会 2019.09.21
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計5件

1. 著者名 <責任編集>永守基樹, <編者>美術教育学叢書企画編集委員会(永守基樹,水島尚喜,相田隆司,山木朝彦), <著者>永守基樹,水島尚喜,藤江 充,藤原智也,奥村高明,岡崎昭夫,新井哲夫,笠原広一,茂木一司,佐藤賢司,神野真吾,山木朝彦,大嶋 彰,小野康男,辻 政博,宇田秀士	4. 発行年 2018年
2. 出版社 学術研究出版/BookWay	5. 総ページ数 208
3. 書名 美術教育学の現在から-<美術教育学叢書1>	

1. 著者名 <編著>村田利裕・新関伸也 <著者>宇田秀士,岡田陽子,岡本哲雄,久米昌代,妻藤純子,佐藤賢司,塩見考次,高田定明,竹内博,勅使河原君江,中村和世,新関伸也,松崎としよ,村田透,渡邊美香	4. 発行年 2018年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 234
3. 書名 やわらかな感性を育む 図画工作科教育の指導と学び	

1. 著者名 <監修・編著>大橋功, <編著>新関伸也,松岡宏明,藤本陽三,佐藤賢司,鈴木光男,清田哲男 <執筆> 神林恒道,宇田秀士,福井一尊,村田透,水谷誠孝,新實広記,藤田雅也,石原通雄,高橋英理子,道越洋美,秋山道広,馬淵哲,松浦藍,宜昌大,堤祥晃,中島嵩	4. 発行年 2018年
2. 出版社 日本文教出版	5. 総ページ数 238
3. 書名 美術教育概論 新訂版	



1. 著者名 <責任編集>金子一夫, <編者>美術教育学叢書企画編集委員会(永守基樹,水島尚喜,相田隆司,山木朝彦), <著者>金子一夫,赤木里香子,長瀬達也,牧野由理,山田一美,有田洋子,三澤一実,新関伸也,和田学,大泉義一,石崎和宏,王文純,立原慶一,上山浩,栗山裕至,福田隆眞,福本謹一, <編集協力・補助> 新井哲夫,宇田秀士,岡崎昭夫,有田洋子,牧野由理	4. 発行年 2019年
2. 出版社 学術研究出版/BookWay	5. 総ページ数 234
3. 書名 美術教育学の歴史から<美術科教育学会叢書2>	

1. 著者名 <編著>新野貴則,福岡知子 <執筆> 秋山敏行,犬童昭久,宇田秀士,内田裕子,岡田陽子,鎌宮好孝,郡司明子,河野敬重,佐伯育郎,佐藤賢治,竹内晋平,竹本封由之進,富田晃,新賞広記,西園政史,藤丸一郎,本田吾郎,松崎としよ,村上タカシ,山本政幸	4. 発行年 2019年
2. 出版社 萌文書林	5. 総ページ数 256
3. 書名 明日の小学校教諭を目指して 子どもの資質・能力を育む図画工作科教育法	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>奈良教育大学 学術リポジトリ ホームページ <a href="https://nara-edu.repo.nii.ac.jp">https://nara-edu.repo.nii.ac.jp</a></p> <p>奈良教育大学 次世代教員養成センター研究紀要 ホームページ <a href="https://jisedai.nara-edu.ac.jp/open/netcommons/htdocs/?page_id=328">https://jisedai.nara-edu.ac.jp/open/netcommons/htdocs/?page_id=328</a></p> <p>奈良教育大学 学校教育教員養成課程 教科教育専攻 美術教育専修 ホームページ <a href="https://art.nara-edu.ac.jp/">https://art.nara-edu.ac.jp/</a></p> <p>The 35th InSEA World Congress 2017 in Daegu,Korea ホームページ <a href="http://insea.cjint.kr/">http://insea.cjint.kr/</a></p> <p>第40回美術科教育学会滋賀大会、第41回美術科教育学会北海道大会 ホームページ <a href="http://www.artedu.jp/taikai/">http://www.artedu.jp/taikai/</a></p> <p>大学美術教育学会ホームページ <a href="https://www.uaesj.com">https://www.uaesj.com</a></p> <p>学術出版/BookWay ホームページ <a href="https://bookway.jp/modules/zox/index.php?main_page=advanced_search_result&amp;search_in_description=1&amp;inc_subcat=1&amp;sort=desc&amp;keyword=%C8%FE%BD%D1%B6%B5%B0%E9">https://bookway.jp/modules/zox/index.php?main_page=advanced_search_result&amp;search_in_description=1&amp;inc_subcat=1&amp;sort=desc&amp;keyword=%C8%FE%BD%D1%B6%B5%B0%E9</a></p> <p>日本文教出版 ホームページ <a href="https://www.nichibun-g.co.jp/data/books/search/?pagenum=3&amp;sort=name_desc">https://www.nichibun-g.co.jp/data/books/search/?pagenum=3&amp;sort=name_desc</a></p> <p>ミネルヴァ書房 ホームページ <a href="http://www.minervashobo.co.jp/book/b357150.html">http://www.minervashobo.co.jp/book/b357150.html</a></p> <p>萌文書林 ホームページ <a href="https://houbun.com/item/287.html">https://houbun.com/item/287.html</a></p>
---

6. 研究組織			
	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	岡田 陽子  (OKADA Yoko)		四天王寺大学非常勤講師

## 6. 研究組織（つづき）

	氏名 (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	吉田 和子  (YOSHIDA Kazuko)		常盤会学園大学兼任講師 /奈良県立青翔中高等学校非常勤講師
研究協力者	宮崎 藤吉  (MIYAZAKI Tokichi)		独立研究者
研究協力者	石垣 倫生  (ISHIGAKI Norio)		近畿大学附属高校講師
研究協力者	加舎 章二郎  (KAYA Shojiro)		大阪府 八尾市立東中学校講師
研究協力者	田邊 憲幸  (TANABE Noriyuki)		大阪府 茨木市立東中学校教諭
研究協力者	尾西 啓充  (ONISHI Hiromitsu)		奈良県 平群町立平群小教諭
研究協力者	松本 隆行  (MATSUMOTO Takayuki)		奈良県 大和郡山市立郡山南小教諭
研究協力者	赤座 雅子  (AKAZA Masako)		子ども絵画造形教室Kids'craft主宰者

## 6. 研究組織（つづき）

	氏名 (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	辻 大地  (TUJI Daichi)		こどもアートスタジオ副代表 /大阪成蹊短大非常勤講師
研究協力者	ウアラス, マリオ  (Ulass, Mario)		ドイツ ハイデルベルク教育大学 教授